

雲仙・西部地域の地熱資源 保護・活用

長崎大と市が協働



金澤市長(右)に提言書を提出した岡田学部長

全源泉の調査提言

両者は地域活性化への包括連携協定を結んでいる。協定に基づき、小浜温泉と千々石岳地区の一部については既に調査を実施しているが、今回、雲仙温泉の地元の賛同を得て、市西部全体であらためて調査する。千々石岳の地熱に複数の開発

長崎大は12日、温泉街などがある雲仙市西部地域(雲仙温泉、小浜温泉、千々石岳地区)の地熱資源の保護・活用に向け、協働での調査実施を同市に提言した。源泉の温度や湯量、成分を把握すると共に、無秩序な地熱発電を抑制するための条例制定などに取り組む。

乱開発防止の条例も制定

業者が関心を示していることから、調査結果は、湯量や泉質など温泉街への影響の有無を事前に検証する基礎データとしても活用する。

調査は掘削せず地表で実施。同大環境科学部が、約100カ所あるとされる全源泉の実態調査やモニタリング、地下構造把握のための電磁探査をする。市は乱開発防止の条例制定、地域全体の意見を調整する協議会の設立に取り組む。

市役所で金澤秀三郎市長が、同大環境科学部の岡田二郎学部長から提言書を受け取った。市は関連事業費を盛り込んだ一般会計補正予算案を6月議会に提出する方針。

岡田学部長は「公正中立な科学的データで、地熱資源の保護と活用を支援したい」と意義を説明。金澤市長は「提言事項を早急に進めるよう検討する」と応えた。(宮崎智明)